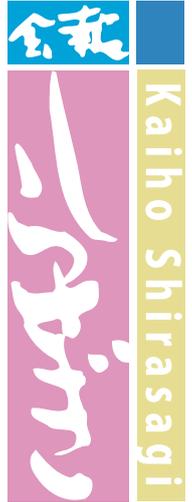
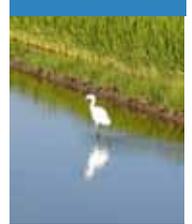


# 高知県立大学創基70周年



Kaiho Shirasagi



第50号

しらすぎ会総会は  
5月の第3土曜。従って次回は  
2017年5月20日

「高知女子大学」の前身「高知県立女子専門学校」の設立認可は、昭和22(1947)年3月31日。その「基」になる「高知県立女子医学専門学校」の開学式と入学式が執り行われたのは、昭和20(1945)年8月8日のことでした。我が母校では創基70周年記念事業が開催され、しらすぎ会でも、その一環として「記念講演会」を主催しました(梅原真氏講演2016年5月21日実施、約100人参加)。また、同窓会活動においても、新しい風がより爽やかに流れるよう、志を新たにしています。そんな母校の現在と、同窓会活動の「今」をレポートします。



ウメバラマコトのアタマの中  
デザイナー・武蔵野美術大学客員教授 梅原 真氏

## 「梅原真」という生き方

### しらすぎ会員としての誇り

講演終了後、講師を囲んだ現役生たちが、「ナマの梅原先生の話がやつと聴けました。夢のようですよー」と声を弾ませていた。現役生のこの興奮ぶりを目の当たりにして、「テレビなど海外へ向けてまでも仕事を紹介されるビッグなデザイナーをお招きでき、ためになる話が聴けてホントに良かったー」。こんな風に、しらすぎ会員であ

ることを誇りに感じた参加者も多かったのではないだろうか。**発想の基本**  
山本雅子副会長は最初に、「一次産業にデザインを掛け合わせ、新しい価値を生み出すデザイナーの、その大きな力を生み出すデザイナー」だと講師を紹介した。つまり、なんだか掴みどころがない、ものすごいスケールを想像できそうだが、氏は最初に発想の基本を、「不利を魅力に変える」とか、「考え方をものをデザインする」とか、サラッと説明された。

**ローカルをグローバルへ**  
私たちが最初に梅原デザイナーに衝撃を受けたのは、「漁師が釣って、漁師が焼いた」の、あの鰹一本釣りが焼きたタキの宣伝だろうか。あれは37歳の作品だったが、その前年には「ボン酢しようゆゆずの村」も手がけられている。  
氏の仕事を改めて紹介する必要もないほどメジャーだが、目に優しく耳に心地よい作品群の一例はやはり披露しておきたい。大方町の砂浜美術館の「ひらひらします」や、「島じや常

●しらすぎ会の会長に就任して、この秋で一年半が過ぎました。



しらすぎ会 第23代会長  
山崎 美恵子

## 会報半世紀。活動に新しい風

母校は現在、垣根の低い「見える大学」を目指し、「域学共生」をスローガンに掲げ、教育、研究に取り組んでいます。そんななか、同窓会もその教育方針に寄り添えたらという思いをますます強くしております。●ところで、同窓会活動についてです。これまで、親睦にやや力点が置かれていたように感じております。  
時代の変化に合わせ、同窓会にはどのような活動内容や役割が求められるのか、昨年は理事が各地の支部総会に参加参加

し、それぞれの課題をともに見つけ、新しい一歩を踏み出す準備の年と位置づけました。そして、在学生と卒業生の連携の不十分さを実感し、また同窓会も**活動のあり方そのものを課題として捉え**、理事会はそれらの方策を立案し、総会で決議していかなければならないと、決意を新たにしました次第です。  
●そして、満を持して迎えた本年、同窓会活動に新しい風を吹かせたいと理事一同張り切っております。平成28年3月、301名の卒業生を迎え、会員数は11,730名となりました。  
**本年の目標**として次の三点を掲げます。  
①支部のさらなる活性化を具体目標に、活動費として五万円を拠出することとしました。

- 平成28年度事業計画(総会承認)
  - ① 大学教育方針に添う県立大学創基70周年記念講演会主催
  - ② 高知女子大学発祥の地記念モノUMENT建設(9月末日の期限で基礎設計等、県に提出)
  - ③ 支部活動支援、学生支援、会員との連絡、調整
  - ④ 各支部長と、理事の合同情報交換会(10月20日開催予定)
  - ⑤ 創基70周年記念式典11月5日
- ② 大学の動きを知り、大学の発展に寄与できる同窓会活動を提案していきたいと考えます。
- ③ 卒業生と大学が繋がる「パイプ役」を、同窓会は(理事会を中心に)、どうすれば果たせるか、探っていきたいと考えます。今後ともご協力をよろしくお願いたします。

識・さざえカレー」、「じつは茶所しまんと緑茶」など、ローカルをグローバルへの応援。

また「やんばるふんばる国頭村」の観光ポスターでの金賞受賞や、高知県の森林率84%を売り出す「はちよんプロジェクト」、NHKの「プロフェッショナル仕事の流儀」への出演など、新聞やテレビでの氏の紹介には、何かしら力を与えられ、古里を見直す気持ちも、知らぬ間に湧かせてもらえるようだ。

### 自分のモノサシを持つ

氏はデザインがうまいだけではなく、話術も巧みだった。つまり考え方をカタチに表わす場合、一時が万事、発想そのものが常に「最短距離で伝える方法」に繋がっているのだ。

氏は、『おまんのモノサシ持ちや！』（日本経済新聞出版社2010年6月発行）と強調する。評論家や識者の判断に頼るのではなく、自分のアタマで考え、自分の価値観で判断しろ！ということだろうが、実は相当難しい。有難そうな情報に溢れ、気の利いた評論をカンタンに手に入れられるいまの時勢、自信をもって自分のモノサシを持つにはそれなりの覚悟が必要だ。  
**マイナスを価値あるプラスに**

「不利な条件をマイナスとせず、それをどうすればプラスにできるかを考えるのがデザインだ」とも言われた。確かに、私たちの周りはマイナスに溢れて

いそうに、つい考えがちだ。だが、「デザイナーとは問題を解決する人」だと氏が言われるように、84%もの森林に覆われている高知県は、「二酸化炭素を吸収する巨大なマシン」で、計り知れない存在価値が、氏の示唆により見えることにもなる。

### 本質に迫る近道

『土佐の味 ふるさとの台所』がキレイなカラーでこのたび復刻された。県内(旧)53市町村を順番に回り、その地域独特の料理の話や聞き、レシピを集めて写真に収め、記録に残した。これが氏の関わる最初の出版物でベストセラーになるが、身の周りの何が大事かを疎かにしない姿勢が、結局は「本質に迫る近道になる」と、デザインばかりでなく、本の出版に関してもまた、気づかされる。

### ローカルをデザインする

十和村の総合振興計画を冊子にまとめる仕事もごく初期に関わられた。「地域の独自性を守るからこそ、時代の最先端になる道である」とあり、これは「現在のローカルをデザインする視点と基本は同じ」とも言われる。

### 課題をデザイン力で解決する

氏のデザイン論を説明される単語自体は分かりやすい。が、社会の課題を見据えてコンセプトを提示し、デザイン力で解決するという方法論は難しい。それを実現させるのが、つまり「梅原真」という生き方なのだろう。

## 平成28年度 総会

ダイジェスト

老朽化した校舎が2015年4月に生まれ変わった生誕50周年記念バスで永国寺キャンパスで

### ●しらすぎ会名誉会長の南裕子 学長からのご挨拶(要旨)

高知女子大学の誕生 本学も齢を重ねて70歳。戦争中に女子医専として誕生し、開学前に校舎は焼失、仮校舎でのスタートに。次いで、南海地震。学生たちは支援のために駆け出されたが2年が終わらないうちに閉学、女子専門学校が生まれ、女子医専一期生が卒業のときに高知女子大学が誕生するという激動のスタートだった。  
**地域と共に歩んできた長い歴史** 本学の理念は、「平和と文化の発展および福祉の増進に貢献しうる人材を育成し、併せて地域社会に寄与することを目的とする」と謳っている。つまり、



▲代議員制導入6回目を迎えた本年。南裕子学長(しらすぎ会名誉会長)、野嶋佐由美副学長(顧問)、岡村昭一事務局長にもご臨席いただき、津野真千子副会長の「開会の言葉」に続き、全員起立で「学歌」斉唱の場面

開会宣言(2016年5月21日、土曜日、13時)、学歌 斉唱に続いて、南裕子名誉会長からご挨拶を頂戴しました。



県立大学として地域に根づき、地域と共に歩む大学を標榜してきたとも云える。

### 地域貢献から「域学共生」へ

地域貢献は、教職員が自分の知識を地域の方々に公開講座等でお伝えしたり共同研究するなど、教職員の活動を中心としてきたが、この言葉そのものは死語になりつつある。

平成27年度からの大学の大きな改革で、「域学共生」という考え方で教育が始まった。全学の学生が何らかの課題を持ち、教職員と学生は、共に地域と連携して、若い時から地域の問題を自分の問題として考えることができる学生たちを育てたいという「地域連携の思想」である。

「地域共生推進士」の称号、誕生 地域学実習、域学共生実習など、指定された地域志向科目全てを履修した学生には「地域共生推進士」の称号を与え、どの

ような職業に就いたとしても地域に貢献できる人材に育てたいと考えている。これは、内閣府からも注目され、何回か説明も求められている。

### 「いつかきき会」の皆様へお願い

高知県在住の役員の方へお願いは、「自分の地域ではこれを学生たちが体験できる」などの提案を、地域教育研究センター長の清原泰治学長補佐までお知らせいただきたいこと。

見える大学、「可視化」を、高校生だけではなく、地域の方々をも対象に、広報誌『ピント』も発行し始めた。学内外の学生の活動はもとより、教職員の色々な活動を歴史も含め、卒業生にもご参加いただきたいながら、本学をアピールしている。

同窓会は、大学にとつては一番の大きな応援団体であると共に、問題点をご指摘いただける存在だとも思っている。山崎会長就任以来、話し合いも重ねているが、今後とも同窓会と大学がタイアップしてどんな仕事ができるか、ご相談を重ねていきたいと思う。

来年度の総会には体育館と図書館、旧図書館が学生自治会館に生まれ変わる予定。この永国寺キャンパスもどんどん変わり、それに伴い、池キャンパスも改善に努めているところ。

しらすぎ会のご発展、皆様のご健勝を祈っています。

▼2016年、盛夏の母校の様子(①かつての正門付近)



# 平成28年度 意見交換会

ダイジェスト

※文字の最少化に努め、ぶつぎら棒な表現になりました。ご容赦を!

## 話し合う方向性提案

●しらすぎ会 会長 山崎美恵子

## 同窓会費の有意な遣い道

在学時、言われるがままに納めた同窓会費(終身)でも、時勢は変わってきたと痛感する。

在学生の疑問、「なぜ同窓会費を終身会費として入学時に払わなければならない?」。

一方、卒業生は、「教養講座など、可能な限りやっても、人数が集まらないのが悩み」。

しらすぎ会は、「会員相互の親睦向上を図り、母校の発展に貢献し、社会文化の進展に寄与することを目的とする」。その

ための終身会費をどう遣うか。例えば「親睦」というなら、支部活性化をどう考えるか。具体的な提案でも、思い付きでも構わないので意見を頂戴したい。

大学の先生方からは卒業生にこんなことをしてもらいたいという要望があるのでは。皆さん専門職なので、「地域で自分たちが核になり、こうもしていける」というような建設的な意見への発展も期待したい。

## 各支部へ一律5万円拠出

次に、各支部へ一律5万円の活性化拠出。組織の大小関係ない一律は、不公平ではないかと理事会での意見もあった。が、人数掛けでは少額過ぎて、却って遣い方が難しいのではという意見も出され、とりあえずは、一律5万の結論に至り11支部55万を予算に計上した次第。

一例として11,730人の卒業生の中で住所が分かっている人が約8千人、他が不明者。「支部ごとに名簿を作り、調査にお金を遣っても」という意見も出ている。

ご来賓の先生方には「卒業生にぜひこういうことを」というご意見を頂戴したうえで、各支部の特徴を踏まえ、ここからま

ず手がけようという話にまで発展すれば、非常にありがたい!

## ご来賓の先生方から

●森下安子学長補佐・学生部長

## 学生支援への感謝

学生活動支援と奨学金への予算に感謝。1.9人に1人の学生が奨学金を受け、その半数が無利子の奨学金というほど経済的に困難な学生が、学生数の増加とともに増えている。それへの予算は本当に有難い。学生への主体的な活動にも、さらに今年度は予備費から熊本の地震ボランティア等に予算。これも感謝。

## 同窓会へ就職支援を期待

卒業生への期待は、学生部としては、就職支援。学生数増加に伴い、北海道から沖縄まで、広い範囲の出身者が入学する。

全ての県の状況までは教員は分からず、卒業生の方々と情報交換しつつ、学生の望むキャリアアップできる就職先の情報を戴き、情報交換できたら有難い。

多様な背景を持つ入学生が増えた。留学生しかり。様々な障害を持ちながらの在生も増えた。それを含み、卒業生は様々

な分野で、幅広く活躍されているので、各支部の皆様方と繋がりつつの、就職支援や就職後のバックアップも願いたい。

●中野綾美 看護学部長

## 学部生20人から80人時代へ

看護学部は学生数が一学年80人。看護学研究科博士前期課程学年15名、博士後期課程3名、共同災害看護学2名で動いている。

学部の実習が忙しいのは昔も今も一緒。カリキュラムが詰んでいるのも一緒。80人、すぐく活発に社会活動する学生や、一生懸命に勉強と実習に没頭する学生も。色々な学生が様々な活動できる機会や場を設けることが大事だと、つくづく感じている。

## 在学中から支部の情報を

看護学部には先輩方が作られたネットワークがあるのでそれを活用しつつ、今後とも先輩後輩の繋がりを大事にしていきたい。80人になり、昔の20人時代とは違ってきて何と工夫しなければと非常に強く思う。

## 行事に際し同窓会の存在

支部会の活動を活発に!に、同窓会。しらすぎ会の各支部でこういう活動をしているとか、卒業時にメール等で連絡先や問い

合わせ先、このぐらいの時期に支部会が催されるなどの情報を、教員が在学中に伝えれば、ネットワークも変わってくるのではないか。卒業生には様々な形で高知県立大学のPRをお願したい。

●岩倉秀樹 文化学部長

## もっと文学部系の繋がりを

高知女子大学発祥の永国寺キャンパスでのホームカミングデーに感謝。多くの卒業生が愛着を持ち、校舎取り壊しに際し、しらすぎ会のおかげで、盛大に別れができた。嬉しかった。

大学ではできない行事でも同窓会の力ででき、有難い存在。

27年度から大きな改革がスタートした文化学部。80名が150名、30名の夜間主コースも設置。人文科学教育の比重がやや大きかったが、社会科学の教育内容も学べるカリキュラムができ、永国寺の新校舎でも授業がスタートしている。

卒業生にも文化学部の現状、改革が進み変わってきた状況を知っていただき、変化を多くの卒業生に伝えて欲しい。それが文化学部のPRにも繋がる。

文学部系は学部独自の同窓会もない。卒業生は私どもにとっても宝。ぜひ繋がりをもちたいので、ご協力をお願いしたい。

▼2016年、盛夏 (2)いまの図書館の最上階、4階から南を望む



# 各支部の代議員の皆さんからのご意見

## ● 関東支部

現役の時、しらすぎ会は資料が来るだけで何ら貢献しなかったし、貢献された記憶もない。東京では向こうの大学出身者が多く、高知にいたら先輩後輩いろいろ話が出来たのにと、さびしい思いもした。「しらすぎ会」は親睦会と捉えていたが、本日の話で、親睦だけではなく、大学の活性化のために、この会がどのように学生に貢献できるか、という方向に変わってきていると思った。

しらすぎ会にはホームページ (HP) があり、関東支部のページもあるが、こちら側から本部にお知らせしたことが載っているだけ。手軽にHPを見られる時代になっている。しらすぎ会のHPに関東支部のリンク先を作って欲しいと話合った。私たちが気づかない所で活躍されている皆さんの方々との情報交換もできるのでは。それらに、5万円企画の予算を遣うことも可能ではないだろうか。

## ● 岡山県支部

支部役員会でも話し合ってきたが、南学長のお話の「域学共生」に尽きると思う。支部総会で県立大学のPRをすることが大事だと思う。多くの卒業生は母校の発展に貢献したいと考えていると思う。その気持ちを形に変えられる企画を、この総会で見つけてきてと言われてきた。

うちの支部は5年前に再開し、去年は新卒者から八十代まで揃った。参加者も18名まで少しずつ増え、この調子で成長していければ！と願う。

## ● 東海支部

有名な美術館の隣の会場での支部総会はほぼ同じメニュー。毎年、話ができ、来年も会う約束をして別れる。案内葉書は一方通行で返事が来ない。所在不明通知が来ないので届いているとは思っている。何か違う情報を出すことができた方が、返信は増えるのかも知れない。

今、大学がこんな風になっていることを、代議員として総会に出る私は分かるが、支部の多くの皆さんは知らない。そういう情報を流すべきと思うし、熊本地震についても、情報がありすぎて、どこに募金すればよいか分からない。

でも、しらすぎのHPを見れば私達は繋がれる。高知の大学で4年間学んだ仲間、そういう意識が繋がれるようなものがあつた方がいいのではないだろうか。

## ● 山口県支部

本日は代理での出席。自分は高校三年生の担任をしており、ちょうど進学等の面談をしているところ。大学は在学中とはずいぶん変わっているが、私の根っここのところで在学中に教わったことが、いま生かされていると、つくづく思っていて、大学での学びに感謝したい。

母校をもっとPRしたいが、山口という土地柄、海がまず障害、四国山地が障害。山口から高知へと生徒の目があまり向かないのは事実だが、幸いこういった立場にあるので、「域学共生」というようなことを実践的に行っている大学がある」と皆に伝えたい。

山口県も、地方都市の例外ではなく、疲弊してきているように思う。高知で学んだことを、山口に帰って生かせるような学生に育つのであれば、本当に山口からも学生を送りたいと、この会に参加して思った。ぜひ、山口の高校にも学生募集にきていただきたい。

また、マスコミを上手に使い、PRしていただきたい。山口県支部は6、7年前に立ち上がった。去年は今西先生の所有されるみかん畑でプチミカン狩りを実施。参加7名。今の世の中、ネットワーク。HPが充実していたら、それを案内葉書にも入れられる。上手にPR活動するのは大事だと痛感する。

## ● 広島県支部

2年に一回支部総会を開催している。案内状に返信がないのが当然で、集まらないことさえ最近では当然のようになり、メンバーはいつもの十人前後。

2年に一回しか連絡が来ないというより毎年連絡が来るとい方が、印象に残るのではないかな。今年は支部会なので「毎年開催」を提案してみるつもり。親睦の向上ばかりになっていくのが良いのか、それも皆さんに諮ってみたいと思う。

しらすぎ会の活動の拠点になるような場所が欲しい。同窓生の得意分野の教室を開いてもらい、地域の人に来てもらったり、在学生が地域の子どもたちの勉強の手助けをするとか、そういうこともできるのでは。

県立大の同窓会「しらすぎ会」は、県民と大学との橋渡し役という存在になりうるのでは。卒業生が地域でさらに認められる存在になれることが、母校の発展にも繋がるのでは。「人にものを教えると、自分の学びにもなる」といわれる。教員志望あるなしに関係なく、学生にもいい経験になるのでは。

高知県にある大学として、さらに県民の皆さんに認識してもらえるような活動のお手伝いできるというのが、母校の発展にも繋がると思いたい。

●京阪神支部  
案内状を出す時に、我々は西暦でしか頭が回らないので、年号を平成ではなく西暦表記にしたらどうか。こちら辺もネックでは。今年の案内状は西暦表記を併記することにした。

▼2016年、盛夏(●南門付近、懐かしい体育館、正門北東の図書館も見える)



●香川県支部  
支部総会は2年に一回開催し、親睦を図ることが、いまのところ主体になっている。案内から経過報告等は全員にしているので、同窓会や母校の大学の状況は皆さんに分かっていただけていると思う。支部総会への参加者は多くはないが、私自身は数多い少ないを議論する必要はないと思っています。それは、返信を見ると、参加されていない方の中に、参加はしたいが、どうしても参加できない状況にある方が多いなあと思える部分があるため。本日のお話の中でこれはいいアイデアだと思ったのはhnp。今は皆さん使いこなせており、支部からのお知らせや、大学の状況を発信して欲しい。去年の支部総会で、お孫さんが高知県立大学に入学され、それがきっかけで初めて支部総会に出席された方がいて、それが、その方の大学との繋がりの在り方だろうと思った。「域学共生」について、私は家政学部家政学科の一回生だが、在学時、自分たちが学習したことを同じようなことを現在なされているので、あの時の先生方の先見の明は、すばらしい、しみじみ……。

●徳島県支部  
今年11月12日(土)に支部総会を開催予定。資料をいただいで、卒業生の多さに驚いている。総会に参加してくれる人は固定化されつつあるが、去年初めて参加された数人が、「仕事の繋がりがあった」とか、「あの方とお知り合い」とか、色々な繋がりを発見され、それぞれ「来てよかった」と、帰られていた。たぶん、色々な方に声をかけたからといって、参加者がすくなく増えるのは難しいだろう。今回、5万円の補助が出るのなら会費を下げるとか、無料にするとかしてもらいたい。そうすることで、これまで来なかった人にも出合いのチャンスを持つてもらい、「来てよかった。やっぱり同窓会の繋がりがついで」と、実感する方を増やしたい。参加メンバーが固定化し、「来てよかったね、また来年!」と解散するだけの形では、いま以上の発展は難しいだろう。若い卒業生の参加は本当に少なく、先程から提案もあるように、「在学生で就職を考えている方と経験者の卒業生が、直接お話をする機会」と、捉えられる支部総会にできたらと、支部総会開催の意義を思う。

●愛媛県支部  
①hnp活用に賛成。山口県支部の方が言われた「大学で勉強したこと恩返ししたい、感謝したい」に同感。卒業したとき、自分は教職には向いていないと、地元愛媛の放送局を受験。学長先生と就職担当の教授の推薦文が届くなんて、どんな素晴らしい人が来るのかと思っただと、受かったあと、人事担当から言われた。当時、大卒で民間の会社に就職するのが珍しい時代でもあったためか、学部をあげて応援していただけたと思っている。そういう意味でも母校にはとても感謝している。愛媛県支部はこれまで「親睦の意味」が重たかったが、去年は大学から講師をお招きして現状のご講演を戴き、食事会開催と、二部制にして好評だった。支部総会での講演会は同窓生の参加だけでいいが、5万円戴けるのなら、こんな講演会を「しらすぎ会主催」でやる、併せて「高知県立大学とはこんな大学」とPRしたい!と思う。地元会員を多く集め、大学からはぜひ色々な先生方にお越しただければ有難いと思う。②hnpやネットワークは重要。門田支部長も言われたが、それなりの宣伝をしないと集まりが悪いのは事実。参加人数にこだわらないという香川県支部の発言もあったが、愛媛県は今年50回を迎える。毎年やれているということは一つの誇りではないだろうか。参加人数にこだわらなくても、「毎年開催」を他の支部の方々も考えたら、と思う。宣伝で支部がhnpを立ち上げるのはハードルが高いので、ぜひ本部にお願いしたい。次回の開催日は決まってお、早い時期からhnpで宣伝していただきたい。開催後の報告は会報でも非常に充実しているが、前もつてのお知らせも大事にしたい。同様に、本部の総会日程を確認したかったが全員出席対象ではないためか、hnpには出ていなかった。同窓生全員に、総会日程を知らせていいのではないかと思う。愛媛県支部は、支部総会を例年6月の第4週に決めているが、夏休み頃に開催して、「在学生にも来ていただかせませんか?」と呼びかけることができよう。会も企画できたら、しらすぎ会の活動も知っていただけるし、また、諸先輩方の色々な人脈があるので、就職の相談や人の紹介もできると思う。在学生が在学中に出席できるように支部総会なら、それが卒業後も出席する会へと自然に繋がることにもなるだろう。

●九州支部

①九州支部の総会には、2回しか参加したことがないが、昨年参加したとき、新卒の社会福祉学部出身者から、民間で介護福祉士として頑張っているという話を聞いた。

悩みを抱えているようで、支部総会終了後、皆が色々アドバイスしていた。そのような感じで、卒業一年目から三年目くらいの方が、もっと参加し、先輩方と話ができる、その人のためににもなると思う。最近、その彼女と連絡を取りあつたら、今度は公的などころの福祉職を目指すという話だ。支部総会でのアドバイスが参考やきっかけになったのかなと思う。

そんな風に、「しらすぎ会」の支部は、親睦を図りつつ、支え合い、助け合いながら、就職などで悩みを持った人もいるだろうから、先輩や同窓生との繋がりを増やしていけたら、本当にいいのと思う。

支部総会案内文面にも工夫が必要で、参加してくれた若い卒業生から、なぜ参加する気になったかを聞いてみると、文面のヒントになるのでは。話にも出ていた通り、「在学生も参加できる会」になれば、と思う。

②九州は広く一カ所には集まりにくい。支部を三つに分ける

のでもいいかも知れない。

530名ほどの同窓生に、昨年先生方がお二人ご参加下さり、会員は15名。例年15名から20名の参加者。

自分が支部総会に参加したきっかけは、近くの同窓生からの電話。以来できるだけ参加している。案内葉書だけでは、参加には結びつきにくいだろう。

さきほど言われたように、新人さんの悩みを聞き、アドバイスができれば、なおいいだろうが、まずは「親睦で集まりましょう」が実際的にも。

そういう中で、先生方からは大学のことやその他、色々な話をお聴きできている。それはプラスαでもあり、親睦を深め、お食事し、いいところがあれば見て、別れる。鹿児島島から福岡まで、福岡から鹿児島、沖縄まで。それだけでは何だかちよつと寂しい思いが昨年した。

卒業、就職し、頑張っているところで、人と会い色々話をして支えあい、そういうのはどこかで求められているのでは。

そういう人に来てもらうには、「誘い合う」のが一番大事だと思う。わざわざ誘われると、「じゃあ行ってみようかな」という気にもなるのではと思う。次の支部会で「直接に声をかけ合い、誘い合う」を提案してみよう。

●高知県支部

大学の「域学共生」についてのお話を聴き、地域教育研究センター長で学長特別補佐の清原泰治先生に、ご提案ができることが分かった。

創基70年記念講演会では、「考え方をデザインする」ということが心に残った。

私たちは年に一回、一般向けにユニバーサルジャーという料理会を開いている。以前は県立大学の学生さんも手伝ってくれていたが、ここ2、3年は途絶えてしまい、今は高知大の教育学部の学生さんが20人ほど手伝ってくれている。そういう行事を秋にやっている。

このような我々の活動も域学共生の趣旨に添うのではないだろうか。

▼2016年盛夏の(新しい)永国寺キャンパス、正門付近



熊本地震発生を受けお見舞い便

拝啓 4月14日、熊本地震が発生し、16日に本震があり、2カ月余りが経ちました。熊本県には33名の卒業生がいらっしゃいます。今は仮設住宅の入居が始まったなど、日々熊本のニュースを知るにつけ、同窓会しらすぎ会は卒業生の皆様のその後の状況を気にかけているところです。

先日、同窓会しらすぎ会の総会が開催され、11支部の26名の代議員の皆様から、熊本県在住の卒業生に何か支援できることはないかという意見が出されました。

同窓会しらすぎ会として何かお役に立てることはないでしょうか。震災後の後片付けなど、多忙な日々がまだまだ続いていることと存じますが、皆様の近況をお知らせください。

同封の葉書で一報いただけましたら有難く存じます。ご健康に留意されますように、また、熊本県の復興が一日でも早く進みますよう、お祈りいたします。

平成28年6月

高知県立大学同窓会しらすぎ会会長 山崎 美恵子

リーダー通信

●同窓生の皆さんのチョコツとしたホットな情報をしらすぎ会事務局まで、ぜひ知らせてください。(sirasagi@cc.u-kochi.ac.jp ☎ Fax088-847-5606)。チョコツと情報の行き交う欄として当欄ご活用を!

■計報

長年ご指導くださった先生方の計報を、心よりのご冥福をお祈りしつつ、お伝え致します。

・石元広見(いしもと ひろみ)先生=元高知女子大学教授(S49.4.1~H5.3.31在籍)、88歳。専門は英語学。平成28年6月2日に。

・金谷嘉郎(かなたに よしお)先生=高知県立大学名誉教授(S42.4.1~H11.3.31在籍)、83歳。専門は経済学。平成28年7月9日に。

●寄贈

今号13面登場の愛媛県支部在住西山悦代さん(英文学科8回生)の水墨画『潮(うしお)』が描く宇宙』と日本画『春宵(しゅんしょう)』が、高知県立大学に寄贈されました。両作品とも、新聞見開きの長辺を2セット合わせたサイズより一回り大きいF50号の超大作で、エネルギーが地の底から湧き出るような迫力に溢れています。鑑賞にぜひお越しください。

# しらさぎ会 ● 各支部だより

## 高知県支部

### 在学生に呼びかける郷土料理の会

●平成28年6月18日(土)、高知会館で支部総会開催。野嶋佑由美副学長(しらさぎ会顧問)・山崎美恵子会長のご臨席、47名が参加しました。支部会員は3,460名、東西に延びる高知の地形で、会員の活動力に支えられています。

総会の主な報告①会則8条の会計年度が、「毎年4月1日に始まり翌3月31日で終了」と改正されたこと。②総会での審議時間が短かすぎるので、時間配分を検討すること。

教養講座は市川典子先生ご講演。日本名城映像を背景に、風景の香り、出会いの妙を熱く語られ、「生涯、チャレンジャー」ぶりに圧倒されました。痛みに悩まされつつも「痛みがなくなってから言いよったら、一生行けん!」と一念発起。孫たちに「じいをよろしく」と、年金生活者でも行けるライトバン日本一周一人旅を70日で実現!! 武勇伝、話術に感動!! 一般参加17人含め皆大きな力を戴いたようでした。

本年度開始「支部活性化企画」は役員会で話し合い、次の如く決まりました。「在学生に呼びかける」ことを主眼に、卒業生と一緒に郷土料理を作り交流を図る企画。新しい試みに乞うご期待。(支部長●原 絢子/生活科学科12回生)

**在学生の皆さん! 参加費無料!**  
高知の郷土料理を卒業生と一緒に作りましょう!

日程:平成28年11月下旬~12月上旬で(近日中に決定予定!)

場所:高知県立大学池キャンパス、調理学実習室101において。

メニュー①田舎寿司 ②ゆずドリンク、ゆずゼリー ③急須で土佐茶を美味しく。冷茶もあります。ペットボトルとはひと味違う日本茶の美味しさを一緒に!



## 東海支部

### スタートは往復はがき

●沖縄県の「平和の礎」には亡くなられた20万人の人々のお名前が刻まれています。ひとくちに20万人といいますが、その数字だけではピンときません。でも、「平和の礎」に刻まれた一人一人の名前を見ると、そこにそれぞれの人生があったことを思います。

どれほどの楽しみや苦しみ、喜びや悲しみがあったのか、見る人の心に、静かに重く訴えてきます。衝撃を覚えます。

高知女子大学の卒業生は11,730人です。私の住む東海には272人のしらさぎ会員がいます。でも、数字だけではピンときません。夏、本部から名簿が送られてきます。存じ上げているのはほんの一割程度、多くの方とは面識もありません。ただ一つ、同じ高知の地で学んだという

共通点があるだけです。それでも色々思います。個の名前に思いを馳せます。そこにその人が居ます。

同窓会開催の往復はがきを作成するとき、住所と名前の印刷されたシールを貼っていきます。

それぞれの名前を確認し、丁寧に貼りながら、今年はどうの方が参加して下さるだろうかと、祈るような気持ちになります。

私の同窓会はこうして始まります。

(幹事●山本眞理子/国文学科16回生)

### しらさぎ会東海支部総会のご案内

日時:平成28年11月12日(土曜日)12:00~

場所:ANA CROWNE PLAZA ホテルグランコート名古屋3階

## 九州支部

### 地震お見舞い御礼他

●平成27年10月25日、福岡市大濠公園内「花の木」で支部会を開催。山本雅子副会長様、教養講座として看護学部森下安子教授の「地域課題解決に向けた大学の新たな取り組み—高知県の中山間地域と訪問看護師育成講座について—」のご講演、活動の様子がよく分かりました。福岡、熊本、長崎、鹿児島から15名、うち3名は初参加。長崎には80名ほど会員がいますので、長崎の大石さん(看27)、武富さん(福14)に、29年は長崎で計画できないか相談したところ、「この指とまれ!」でやろう!と頼もしいお返事。5万円企画と絡ませて実現できないか、検討中とのこと。長崎開催に協力できる方は大石博美さん(090-4778-5268)まで、ぜひご連絡をお願いいたします。

さて、4月14日と16日の熊本地震の件。県内に33名の会員がいます。居住も広域で被災地も広範囲、全員の状

況は掴めていません。本部から直接お便りで被災状況を尋ねてありますので(6面)、次第に分かってくると思います。未返信の方は、知らせて下さい。

私の住む熊本市北区では家の周りで瓦やガレキが落ちブロック塀が倒れ、車も人も動けない状況になりました。ガス管が割れ、ガス漏れで恐ろしかった。電気はすぐ復旧、でも水道やガスは時間がかかりました。自治体、ガス、水道、保険の関係者が全国から入られ、お蔭で片付いています。

私には地震直後に遠方の大学の級友から「大丈夫か」と電話が入り、勇気づけられました。皆の支えで克服しつつあります。感謝です。いつでも、何なりとご連絡ください。

(支部長●宮川麗子/看護学科14回生090-1519-0393)

▼後方に風光明媚な水のオアシス、「花の木」で



## 京阪神支部

# 11.20 正午~グランヴィア大阪 20F 集合

●しらすぎ会京阪神支部の皆様、お健やかに過ごしてはいかがでしょうか。昨年の会報『しらすぎ』でお知らせした総会・親睦会の開催がいよいよ近づいてまいりました。

皆様のお手元に案内状は届いているでしょうか。今年の総会・親睦会は2016年(平成28年)11月20日(日)12:00~15:00 ホテルグランヴィア大阪・20階・鶴寿の間で開催します。今年はお来賓として高知県立大学学長の南裕子先生、しらすぎ会からは津野真千子副会長がご出席くださいます。

しらすぎ会京阪神支部では、これまでも、公立大学で初の女性学長になられた母校出身の池川順子先生をお迎えして、多数の参加者が参集し、楽しく有意義な時間を過ごした記憶が鮮明に残っています。あれから四分の一世紀ほどの時が流れ、「光陰矢の如し」を実感しています。

今回、平成17年に国際看護師協会の第25代会長に日本人として初めて就任された経歴をお持ちの南裕子学長先生と私たちが思い出に残る魅惑の時間を共有できることになりました。

そこで一人でも多くの同窓生の皆さんにご参集いただきたいと「しらすぎ会」本部の支部支援の新しい企画に応募し、会費を例年より低く抑えることができました。

ぜひ多くの同窓生の皆さんのご参集をお待ちしております。会場で幹事の私たち食物栄養学科3回生の4人(大井、大石、眞光、道倉)がお待ちしております。ぜひぜひ、いらっしゃってください!

(支部長●大井加壽子/食物栄養学科3回生)



## 岡山県支部

# 母校の発展に貢献したい!

●毎年8月の終わりに支部同窓会を開催しております。2016年は8月21日(日)に、2017年は8月20日(日)に開催いたします。

今年の試みとして、岡山県出身の在學生に同窓会の案内を出しました。案内を出すに当たり、しらすぎ会本部の方々、大学の部局長の方々に積極的にご協力を賜り、お蔭で実現できました。厚く御礼申し上げます。

卒業生が現役の学生さんに接することによって、また大学生が卒業生の経験談を聴くことによって、お互いにパワーを与え合うことができたら幸いですし、在學生に同窓会(しらすぎ会)の活動や存在意義を理解していただけることを願っております。とはいえ、私自身も遠い昔を思い起こせば、卒業生の大先輩にお目にかかる!という状況がイマイチ、ピンとは来なかったのですが…

(汗)。できればこの試みを今後も継続したいと思います。

少子高齢化といわれるなか、どこの大学でも生き残りをかけて色々な取り組みがなされています。高知県立大学でも「域学共生」を掲げ、様々な活動が活発になされており、関係各省市から表彰されるほどの活躍をしています。

卒業生にもこのような情報を共有し、高知県立大学を広く知ってもらうことで、私たち卒業生は母校の発展に貢献できるのではないかと、という思いを新たにしております。皆さん、支部同窓会に参加しましょう!雑談の中で、経験豊富な先輩後輩から元氣や知恵をもらいます。本部からは大学の現状報告もあります。役員一同、参加して良かったと感じていただけるように頑張っています!

(支部長●桐本尚美/生活理学科7回生)



## 広島県支部

# 本年、心に残る支部会企画

●広島県支部では支部会を2年に1回開催しており、今年で16回目を迎えます。参加していただきやすくなるために、県東部と西部で交互に行い、今回は県東部の福山市で開催することになっています。

現在(8月中旬)、県東部に在住の幹事さんたちが内容を深めてくださっていますが、きっと今までにない内容のものになるのではないかと、心待ちにしているところです。

何しろ8年前に福山市で開催した際には、ミニクルージングを組み入れて企画されたのですから…。

その後の支部会でも、三次市では温泉と美術館、東広島市ではボランティアガイドさんに案内されて酒蔵通りを散策…と、楽しいひとときを過ごしました。

このように、それぞれの幹事さんがプラスアルファの

ものを考えてくださっているゆえに、毎回、心に残る支部会になっているのではないかと考えています。

ところで支部会では、支部会開催案内ハガキの返信の少なさがちょくちょく話題になります。

例えば前回(2014年)の開催でいえば、192名の支部会員のうち返事が返ってきたのは75名のみでした。幹事役としてはちょっと寂しくなる数字です。

今年、案内ハガキがお宅に届きましたら、ぜひ目を通してくださいませ。そして、「欠席」の方も返信ハガキを投函していただければ、支部会活動の励みになります。どうぞよろしく願いいたします。

もちろん、「出席ハガキ」大歓迎です。

(支部長●田中めぐみ/国文学科9回生)

## 山口県支部 仲間が近い心強さ

●良いお天気に恵まれた2015年12月5日、海を一望できるすばらしい旅館で第4回支部総会、そして大島の今西農園に移動してのみかん狩りを行いました。出席者は今西先生をふくめ6名でしたが本部より小松美鶴理事を迎え、少人数だからこそ和気あいあいムードで、ざっくばらんなお話ができて、楽しい時間を過ごしました。

いつも議題となるのがいかに多くの会員さんに参加してもらうか、魅力のある会とは何か…いろいろ意見は出るもののこれといった決め手もなく、結論持ち越しの散会となりました。

私の経験から言えることですが、山口支部発足時(平成21年)初めての総会に出席して多くの仲間が近くで活躍していることを知り(山口県には同窓生はあまりいないと思っていましたから)、感激しましたし、心強く思いま



した。最初の一歩は億劫かもしれませんが、出席するたび、母校の発展の様子や仲間の活躍ぶりを聞くことができ、元気が湧いてきます。

先日、支部役員と有志で支部活性化について話し合いを持ちました。総会は隔年を予定していますので今年はありませんが来年の総会までに何回か会合を持ち、より良い企画を考えていきたいと思っています。

次回は県央部の便利の良い場所にしたいと考えています。まずははじめの一歩から、気楽に足を運んでみてください。きっと次回も参加したくなる筈です。

(支部長●岡村志津枝/国文学科13回生)

## 香川県支部

## 総会報告も継続で!

●支部総会は、平成27年11月14日に高松国際ホテルで開かれました。本部から永尾朱美監事のご出席を戴き、昭和26年女専で卒業の辻村宮子様から昭和60年の卒業生まで幅広い参加者。卒業以来、初めて出席された方もおられ、新しい出会いに感動し、同窓会ならではの「絆」も感じました。

しらすぎ会前会長の永尾監事から資料を元に、高知県立大学の現状やしらすぎ会の最近の動きについて丁寧に説明戴き、続く生活改良普及員の経験を活かした「土佐の食」のお話は、愛媛出身の永尾監事の土佐弁は流暢!、しかも永尾監事の手づくり「生姜糖」を試食して高知の言葉も味も堪能できました。

親睦会では会員の主体的な生き方をお聴きし、母校で受けた教育に誇りと感謝の気持ちを持たれていることが

よく分かりました。役員  
の久本昌美さんが母校の  
歩みをパワーポイント映写され、学生時代に思いを馳せました。出席者にお土産として手づくりの便利箱をお渡しし、鉛筆立てや小物入れ等、活用されている便りも戴きました。

香川県支部は川田昭子元支部長様を始め、これまでの役員の方々が支部の発展にご尽力くださり、今日の支部活動に至っています。支部総会が「同窓生としての絆」を深める大事な場になるよう、役員一同心を込めてこれからも開催します。参加できなかった会員には平成28年1月に支部総会について報告しました。同窓生の絆を強めるため、報告は今後も継続します。活動活性化のため皆様のお考えをお聴きできたら幸いです。次回は平成29年に開催予定です。(支部長●嶋村洋子/家政学科1回生)



## 徳島県支部

## 世代を超えた不思議な連帯感

●今年度は徳島県支部のしらすぎ会を開催します。案内状は9月に発送予定です。この会報をご覧になられた方は、お誘いあわせの上、ぜひご参加くださいますようお願いいたします。平成26年に支部長を拝命し、その年度の支部総会案内は、徳島支部の全会員に発送しました。おかげで、住所変更や不明の方も把握することができました。返信いただいた方のお葉書は、総会時に出席者に回覧させていただきました。今年度も、しらすぎ会を思い起こしていただくためにも、全員に案内を送らせていただく予定です。

今年の総会では、本部から出席いただき、大学の情報を伝えていただきます。また、5万円の支部活性化拠出金が出るそうですので、在校生を招待する企画を考えているところです。同窓会では、世代を超えて不思議な連

帯感が生まれます。一緒に、大学生活、徳島での暮らし、仕事について、情報交換しましょう。

(支部長●多田敏子/看護学科19回生)

### しらすぎ会徳島県支部総会のご案内

日時:平成28年11月12日(土曜日)11:30~14:30  
(受付開始11:00。最初に写真撮影します)

場所:グランドパレス徳島

〒770-0831 徳島市寺島本町西1-60(ポツポ街の西端です)  
(ホテル☎088-626-1111)

会費:5,000円(当日お持ちください)

連絡先:多田敏子(昭和48年看護学科卒業)

☎(自宅)0884-44-2108 (mail) toshikotada12@gmail.com

## 愛媛県支部

# 会報と同年、50回の節目の今回

●今年50回目の愛媛しらすぎ会の準備は、東予の英文学科5名と支部長さんたち2名も出席されて、楽しい食事会からスタートしました。

6月26日(日)総会当日は、梅雨にマレなる晴天に恵まれ、まずはホッとしました。高知県立大学から、地域教育研究センター長の清原泰治先生が、お忙しいなか、かけつけてくださり、活力あるお話や、懐かしい映像に、高知に行ってみたくなりました。また、しらすぎ会本部から山本雅子副会長がご出席くださり、50年つなげていく地元力に改めて感謝の思いを強くしました。

今年は第1回愛媛しらすぎ会から見守り育てて下さいました諸先輩の皆様から、高知県立大学一期生も出席くださり、大学時代の家族的雰囲気よみがえったようで、お天気にも負けない晴れ晴れとした一日になりました。

高知時代あればこそ、気負わず、でも懸命に息つぎしたり羽を休ませたり、次の51回に向けて、皆さんお元気でありますように。介護や日々のことをかかえながら、パソコンや篠笛、また道後館への道すじなど、メンバーの皆様ほんとうにありがとうございました。準備もまた楽しかったですね。

西山悦代様(英文学科8回生)の水墨画が母校で観られる日も楽しみにしています。来年は国文学科の皆様が幹事をしてくださいませ。"しらすぎ一羽もよし 集うもよし" (幹事●山田尚子/英文学科7回生)



## 関東支部

# 同窓生の心のオアシスに!

●大学を卒業してから四十余年。大学と距離的に遠かったこともあり、仕事や環境は一からの出発でした。(他大学の先輩後輩の付き合いがうらやましかったなあ)。友は主に職場の仲間です。最初に就職した愛知県から、東京の江戸川区で教職を卒業するまで、心置きなく仕事に励み、教育談義を熱く語る友人に多く恵まれました。しかし心のどこかには自分は「一匹オオカミ」的なところがあると時々思わされました。

私が童話作家「新美南吉」を知ったのは、恥ずかしながら大学の友人が卒論で取り上げていたからです。教科書には「ごんぎつね」「てぶくろをかいに」など多数出典もあります。宮沢賢治と肩を並べる作家です。私もやっと教職の終わり頃になって「南吉研究会」に入り、彼の文学生涯

▼2015年10月25日の第18回総会・懇親会。本部からは青木晴男特任教授、津野真千子副会長がご出席くださった



を学ぶに至りました。

大学時代には学問はもちろんだけれど、私にとっては友人と人生観やものの見方を熱く語り、人生に一步踏み出す勇気や心意気を学んだことがすくなく大きな糧になっていると今でも思っています。それが私の大学生生活でした。

「人との繋がり」を大事にする、「文学」などを通してたくさんの作家達から人生を学ぶ、その萌芽は母校にあったことが今にして分かってきたようです。

長い歩みでしたが母校に感謝します。母校から遠くにいる同窓生の心のオアシスになれたらいいな!と思っています。(支部長●木村育子/国文学科13回生)

### 平成28年度支部会員数(28年3月卒業生を含みます)人

関東支部(東京、神奈川、埼玉、千葉、茨城、栃木、群馬、山梨)	499	(うち新加入7)
東海支部(愛知、岐阜、長野、三重、静岡、新潟)	272	(うち新14)
京阪神支部(大阪、京都、奈良、和歌山、兵庫、滋賀)	857	(うち新37)
岡山県支部	278	(うち新8)
広島県支部	222	(うち新16)
山口県支部	60	(うち新5)
香川県支部	483	(うち新6)
愛媛県支部	590	(うち新16)
徳島県支部	618	(うち新16)
高知県支部	3,460	(うち新138)
九州支部(福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄)	559	(うち新15)
以上、11支部35都府県に居住の卒業生合計	7,898	(うち新加入278)
支部の無い県に居住(支部に属さない)卒業生	346	(うち新卒23)
国外在住者	43	
物故者	232	
居住地不明者、その他	3,211	

平成28年4月末日現在の卒業生の総数は11,730人

学部卒業生・大学院修了生の総数=11,730人(7,898+346+43+232+3,211)

### 平成28年度 しらすぎ会の運営体制

名誉会長 南裕子(学長) 顧問 野嶋佐由美(副学長)

〔理事〕  
 会長 山崎美恵子 副会長 津野真千子、山本雅子  
 (理事)池上美佐子、岩城ゆかり、川口順子、川村雅子、北村貴美、小松美鶴、田中真希、仁尾郁、原絢子、藤原佑佳子、水田佐智子、横川峰子  
 (監事) 永尾朱美、西谷抄希子

記念碑建設委員会  
 ●山崎美恵子、永尾朱美、津野真千子、宮田福、中岡道子、霧田和子、中澤寿美恵

会報編集委員  
 ●広報担当理事 仁尾郁、水田佐智子  
 ●会報編集小委員会 鍵山絹江、坂本正子、坂本美和、竹内久恵、森和美

※平成27年度の総会で推薦委員会の発足が決定しました。推薦委員会は、各学部(前身の学部、学科を含む)4つのカテゴリーから各2名の委員が選出され、推薦委員長を中心に理事候補を選ぶ、という役割を担っています。

平成28年度

# 意見交換会

を受けて

5月21日(土)  
永国持キャンパス

●「支部の皆様方のご意見を聴かせていただき、大学側としてぜひお願いをしたことが、たくさん浮かんできました」と南学長からは、意見交換会の最後に、「大学側からのお願いの話を、改めていただきました。」

## 南裕子名誉会長から、しらすぎ会の皆様へ

### ①11月5日、70周年記念講演会

70周年記念事業の式典や講演会は11月5日。ぜひお越しください。また、同窓会とも連携して色々な行事も一緒にしていきたいと思っていますので、ご協力をよろしくお願いします。

### ②高校の先生方に募集のお願い

入学生募集、公募についてもいいアイデアをいただいた。卒業生の中に高校の先生がいらっしゃる。その先生方のごところに説明に行かせていただければ、願ってもないことで、ぜひお願いしたい。

卒業生名簿をしっかりと見て、高校の先生にはこちらからも働きかけてお願いしたいと思う。実は、すごく効果があると、今年分かった。

昨年、看護学部だったか、島根県の卒業生のツテを頼って公募に入ったら、島根県からの受験者が非常に多かった。特別に突出していた。卒業生のお力によるものだと思う。

受験生の動向では、高知県の次に多いのが四国の他県、そし

て関西。それに中国であるが、最近、四国出身の受験生が少なくなっている。

看護学部などは、どこの県にもできたということもあるが、ぜひ卒業生のお力をお借りして、四国の他の県も受験生を増やしていけたらと願っている。

### ③地元の受験生の確保に向けて

特に高知県支部の皆様方にお願いしたいのは、地元に残る学生を増やせと言われているので、受験生確保に関しての色々な情報。ネットワークをお持ちだと思つたので、教えていただけたらありがたいと思う。

### ④世代を超えて学ぶ大学として

最近、親子二代にわたって当県立大という方々が結構増えている。一組だけ親子孫三代にまたがる方が、高知県に一人いらつしやる。社会福祉学部の第1期生がお孫さん。その方だけではなく、県外にもそういう方がいらつしやる。意見交換会で知り、本当に心強く思う。その方のお名前を覚えていただきたい

と思う。

「世代を超えて学んでいる大学」というようなアピールの形でできたらと思う。

### ⑤「名簿」の充実のための努力

同窓会で大学に対して、いちはん貢献していただけているのは「名簿」。

大学は卒業生の卒業直後の名簿は持っているが、それ以降はない。個人情報の関係で大学側が名簿を作れない。しらすぎ会が作った名簿を大学側が共有することはできない。卒業して「しらすぎ会」の準会員から本会員になるときか、4回生の段階で、住所の変更をしらすぎ会に知らせるとき、大学でも共有していかどうかの許可を取らなくてはいけない。そして大学側が持っている名簿も本人の許可が必要となる。いづれにしても、何より名簿が大事である。

### ⑥卒業生による母校への評価

いま、大学は卒業生の評価をきちんと受けておくべきだと言われており、卒業生たちが大学をどう思うかという評価が各大学で求められている。

先般、「しらすぎ会」のご協力のもと、ウェブ調査を実施したところ、一万人以上の卒業生がいるにも拘わらず、回答者は125人。若い人ならウェブを使っているとはいえ若い人も回答しない。大学側が出しているものに対してさえこの状態なので、

皆様方のご苦勞もよく分かる。125人を見てみると、世代を超えて回答してくれている。「大学でいい教育を受けた」と、わざわざ回答してくださるぐらいだからプラスの評価が多いのは当然だろうが、教育に関する満足度は非常に高いことが窺えた。

そして、何が足りなかったかという地域貢献、地域連携、実習、調査はしたが、自分たちの視点から自分たちから自主的に行くことはなかった。もう一点指摘されたのは、国際交流がなかったと、どの年代から。

それではいけないということで、池キャンパスの運動場の一角には国際寮が来年の春にできる。留学生と国内の学生が生活することで、生活から国際交流を進めていきたい。

### ⑦卒業生の声を集めたい

そういう風に卒業生の声は非常に大事なので早急に調査をかけなければいけないと思つている。ご協力をお願いしたい。

### ⑧在学生の支部総会への出席

意見交換会のなかで、在学中から「しらすぎ会」の支部総会に出席する、という提案があった。本日の70周年記念講演会には5人しか出席していないと聞いて、少しかかりました。支部の総会に出て行くのは非

常に良いことだと思う。これまでは学部ごとの縦割りだったので、学部を超えた同窓会に行くというものあまり魅力を感じなかったかも知れない。しかし今の学生は、学部を超えた付き合いをしたいように思える。

学生時代に同じ県の出身者に会える、先輩後輩に会えるという経験は、そこで一言でもしゃべる機会があればよいと思う。しかしまだ本会員ではないので、何かしら工夫は必要と思う。

支部総会へのご案内には、それぞれの学部が協力できると思う。

### ⑨県立大学をもっとPRしたい

広報に関しては、高知県では成功していると自負している。地元紙には、毎週ほとんど載らない日がない。ラジオも毎日曜日、学生による番組がある。このように、高知県内に関しては大丈夫と思う。

ただし、これが全国区に拡げられないのが問題。いちど、全国紙に載ったが、それも一紙だけ。新聞は単発なので、機会を逃す人もいるだろう。テレビ番組の四国版があるので、せめて、そこに登場できるようにしたい。

### ⑩大学へもお声がけを!

同窓会の存在は本当に大切だと思つたので、もし大学の中で何かできることがあれば、遠慮なくおっしゃってください。

平成27年度会計報告(平成27年4月1日~平成28年3月31日)

平成28年度予算(H28.4.1~H29.3.31)

○一般会計・収入の部 (円)

項目	H27年度予算	H27年度決算	増減	備考
繰越金	6,632,334	6,632,334	0	
入会金	4,298,000	4,298,000	0	14,000円×307名(学部生282+院生25<本学学部及び研究科出身者を除く>)
利息	-	1,623	1,623	奨学金返済金口座も含む
奨学金返済金	540,000	590,000	50,000	S02-1:7万円、S07-1:6万円、S07-2:17万円(完済)、S09-1:6万円、S09-2:6万円、S10-1:6万円、S10-2:6万円、S11-1:5万円
前年度寄付金	4,920	4,920	0	H26年度寄付金
その他	-	0	0	
合計	11,475,254	11,526,877	51,623	

○一般会計・支出の部 (円)

項目	H27年度予算	H27年度決算	増減	備考
会議費(総会)	20,000	5,900	-14,100	総会茶菓子他
旅費	350,000	242,880	-107,120	総会代議員旅費、理事交通費
卒業祝	550,000	581,790	31,790	ふくさ1,419円×410名
入学祝	150,000	142,560	-7,440	タイタック記事:330円×400個
学生支援	900,000	620,000	-280,000	奨学金1名、ホームカミングデー-学生活動助成金
支部強化	800,000	884,182	84,182	支部総会開催補助金、総会理事参加旅費
広報	1,000,000	864,361	-135,639	会報49号制作(校正料込)、封筒、募金振込用紙印刷費・募金者名簿制作代理事会交通費
会議費	80,000	145,072	65,072	
小計	3,850,000	3,486,745	-363,255	
事務費	300,000	62,823	-237,177	什器備品、事務用品、封筒等
報償金	100,000	5,000	-95,000	行政書士 労務規定について
賃金	750,000	698,000	-52,000	千円×606h+賞与22千円×2+交通費4千×12ヵ月
会報発送	700,000	679,224	-20,776	発送費
その他通信費	150,000	138,830	-11,170	振込料、電話、葉書、切手、送料等
小計	2,000,000	1,583,877	-416,123	
予備費	5,625,254	215,802	-5,409,452	ホームカミングデー-経費、記念メニューメント関係費用、事務局電気料等
合計	11,475,254	5,286,424	-6,188,830	

○特別会計・基本金

次期繰越金 11,526,877-5,286,424=6,240,453 (円)

項目	H27年度予算	H27年度決算	増減	備考
繰越金	15,861,987	15,861,987	0	H26年度
入会金	307,000	307,000	0	H26年度卒業生1,000円×307名(学部生282+院生25<本学学部出身者を除く>)
モニュメント代金一部支払		-2,000,000		高知信金(定期)解約百万と同普通から百万、計2百万を(有)新宮アトリエに支払う。請求は432万、残はモニュメント募金から支払う。
手数料		-864		
利息		31,296		
合計	16,168,987	14,199,419		

・在学生預かり金

項目	H27年度決算	備考
繰越金	18,762,341	H24=305(学部生3未納)、H25=310(学部生4未納)、H26=303(学部生7未納)
H27年入学生	5,280,000	15,000×352名(学部生367+院生14<学部生29未納>)
未納者入金	45,000	15,000×3名(H24入学1、H25入学1名、H26入学1)
H26年卒業生	-4,605,000	15,000円×307名(学部生262+院生25<本学学部及び研究科出身者を除く>)
利息	51,619	
退学者返金	-120,000	15,000×8名 H26年度退学者返金
振込手数料	-1,728	
合計	19,412,232	

・H27寄付(一般)・H27「碑」募金・モニュメント募金総額

内訳	金額	内訳	金額	内訳	金額
振込	16,000	現金	135,162	H25年度	3,830,750
手数料	-130	銀行	47,000	H26年度	1,299,352
合計	15,870	ゆうちょ	1,328,000	H27年度	1,480,892
		手数料	-29,270	合計	6,610,994
		合計	1,480,892		

内訳	金額
募金総額	6,610,994
特別会計基本金	2,000,000
利息	977
(有)新宮アトリエ	-4,320,000
手数料	-864
募金総額残高	4,291,107

○一般会計・収入の部 (円)

項目	H28年度予算	備考
繰越金	6,240,453	H27年度繰越金
入会金	4,214,000	14,000円×301(学部生272+院生29<本学学部及び研究科出身者を除く>)
利息	-	
奨学金返済金	560,000	返還者9名
前年度寄付金	15,870	H27年度寄付金
その他	-	
合計	11,030,323	

○一般会計・支出の部 (円)

項目	予算	備考
創基70周年記念事業	300,000	記念講演会実施に関わる諸費用
総会補助	900,000	総会開催補助金、理事等総会参加交通費
活動補助	550,000	50,000円×11支部
広報	1,000,000	会報50号1万部、寄付者名簿制作代
入学祝	150,000	330円×400個
卒業祝	600,000	1,500円×400名
奨学金	1,000,000	500,000円×2名
講演会	100,000	講師謝礼等(卒後、社会生活に役立つ内容等)
活動支援	300,000	立志社中、国際交流センター等
総会	10,000	施設使用料等
理事会等	20,000	施設使用料(実費)750円×(12回+a)
総会	400,000	代議員交通費
理事会等	200,000	理事、監事交通費等
記念碑建設	250,000	制作者と打合せ諸費用(確認申請書)等
小計	5,780,000	
事務費	300,000	事務用品、封筒、什器備品、HP保守管理費等
賃金	750,000	1,000×(6×8)×12+4000×12+22000×2+a
会報発送	750,000	84円×8,400通、発送用封筒
その他通信費	300,000	振込手数料、電話、葉書、切手、送料等
小計	2,100,000	
予備費	3,150,323	
合計	11,030,323	

○特別会計・基本金 (円)

項目	予算	備考
繰越金	14,199,419	H27年度繰越
入会金	301,000	H27年度卒業生1,000円×301名
利息	-	
合計	14,500,419	

○在学生預かり金 (円)

項目	予算	備考
繰越金	19,412,232	平成27年度繰り越し
H28年度入学生	5,925,000	15,000円×395名
H27年度卒業生	-4,515,000	15,000円×301名
利息	-	
退学者返金	-120,000	15,000円×8名 H27年度退学者返金
合計	20,702,232	

○モニュメント募金 (円)

項目	金額	備考
繰越金	4,291,107	H28.3.31現在

監査報告 領収書、出納簿、預金通帳等監査した結果、財務が適正に処理され、誤りなどの問題がないことを認めます。

平成28年4月9日 永尾 朱美 西谷 抄希子

### 人事消息

(敬称略)

●退職(平成28.3.31)  
健康栄養学部教授 荻沼一男、文化学部教授 小林直三、看護学部教授 森下利子、同教授 鈴木。社会福祉学部准教授 後藤由美子、看護学部助教 青木美和、同助教 下元理恵、同助教 野町磨意(まい)、同助教 樋口礼子、同助教 山本かよ、健康栄養学部助教 若林直子。

●採用教員(平成28.4.1)  
文化学部教授 小長谷こなかや、悠紀(ゆき)、同准教授 鳥飼(とりかい)真人、同講師 オハーグ・ランドリュウ、同講師 溜(たまり)和敏、看護学部准教授 森本悦子、同助教 高樽由美、同助教 佃雅美、同助教 内舞里(まり)、同助教 山口智治、同助教 岡理枝、社会福祉学部准教授 中島(なかしま)洋、同助教 片岡妙子、健康栄養学部教授 稲井(いない)玲子、同講師 竹井悠一郎、同助教 隅田有公子(ゆきこ)。

●採用教員(特任)平成28.4.1  
人間生活学研究科特任教授 荻沼一男、地域教育研究センター特任教授 佐藤恵里、看護学研究科特任教授 睦地博士、同特任准教授 ランドリュウガツ、高知短期大学特任教授 池谷(いけや)江理子。

# よろこびこそ先輩後輩の皆さん

※掲載順は、原稿を預かり順とさせていただきます。

中桐佐智子さん(看護学科11回生 昭和40年3月卒業) 岡山県在住

## 押しかけてでも!の情熱で

### 集中講義で具体例

私は、長年養護教諭や看護師・保健師の教育に関わって来ました。大学や短期大学で養護教諭や看護師を養成すると共に、養護教諭養成に的を絞った教科書や参考図書を作成も行ってきました。



▲大山を背景に、2016年の新春

私が今あるのは、大学時代に岡山大学の青山英康先生と出会えたおかげだと思っております。卒業を目前に、進路に迷っていた時、青山先生(非常勤)の集中講義があり、地域や産業界で優れた保健婦活動をしている具体例を聴きました。

早速青山先生を訪ね、素晴らしい実践をしている保健婦の指導を直接受けたいと厚かましくお願いし、卒業後、同級生二人と共に岡山に押しかけました。地域保健を希望していたT子は講義で紹介した保健婦が働く町役場に、産業衛生を希望していたO子は靴製造会社の保健部に就職しました。

### その場に居合わせた偶然

そんな折、岡山理科大学の理事長が、「K市から依頼を受けて、医療保健関係を養成する短大を計

画しているので、協力して欲しい」という相談を青山先生に持ち込みました。偶然その場にいた私にその役割が回ってきました。

理事長と青山先生の指示を受けて、廃校になった高校の敷地や校舎を利用し、教室を作り、カリキュラム作成、教員や学生募集等の作業に取り組みました。

昭和42年4月には、保健科、保育科の二学科を持つ順正短期大学を開設し入学生を迎えました。私は、学生寮に住み込み授業や学生の指導に明け暮れました。学科増の作業も継続し、歯科衛生学科と介護福祉学科を翌年増設し、順正看護専門学校を新設しました。

### 欲しい内容の教科書が

なかつたから…

養護教諭の授業では、医学や看護学の科目は、看護師養成のため

に作成された教科書を使っています。しかし養護教諭が学校で扱う子どもの健康管理に内容を絞った看護学や解剖学、救急処置などの養護教諭養成用の教科書が必要と感じるようになりました。そこで、親しい教員と出版社に相談し、教科書や参考図書を企画、発刊し、

西山悦代(悦兆)さん(英文文学科8回生 昭和42年3月卒業) 愛媛県在住



▲養護教諭養成に特化した教科書を、親しい仲間と増刷中

## 納得できる道へ進む意欲

### 人生は二毛作

かされる思いでしたが、もう一つの憧れでもあり、高齢になった父・薦田義山の跡を継ぐという意味もある水墨画の画家への道を歩むため。50歳という年齢は、進路変更にはギリギリだという思いもあり、退職を決意したのでした。



▲墨敷き(40畳和室)の画室で、正座して制作中

さて、水墨画を描くに当たってどういう展開をするか考えましたが、公益社団法人の認可が下りている団体は全国に二つしかなく、その一つである「日本・中国水墨交流協会」に入会しました。

大学を卒業して早くも50年の月日が流れましたが、振り返ると、愛媛県の高校教師として22年間、水墨画の画家として22年間、私は二つの道を歩いてきました。どちらも私にとっては忘れることのできない素晴らしい道のりでした。高校退職は、本当に後ろ髪を引

何のために水墨画を描くのかとい



▲会長を務める水墨白樺会の授業風景(月刊『水墨画』2014より)

頑張ってください。

う思いが、常にありました。日中・水墨交流協会の綱領に「世界の平和は、人類一人一人の心の中にある。水墨画を通じた交流の輪を拡げよう(以下略)」と謳われており、この綱領に答えを得たのです。

### 伝統文化を広い世界へ

2005年にはこの考えを実践すべく、広島でチャリティ平和祈念水墨画展を協会の会員たちと開催しました。在日中国人の王子江さんは百号の大作を描いてくれましたし、全国の会員からは五百七十点もの色紙が寄せられ、売上金70万円を、「平和のために遣って下さい」と、広島市に寄付することができました。

もう一つの目標は、水墨画の普及です。最近、洋画に押され気味ですが、この素晴らしい日本の伝統文化を世界に紹介し、広めたい。そう考え、2007年にはニュー

高田美智子さん(英文学科6回生 昭和40年3月卒業) 愛知県在住

# 外国語とのつきあい

## 「不消化」転じて…

大学を卒業したとき、ある先輩に宛てた手紙に、「私にとって大学生活は莫大な宝庫でした」と書いたのを記憶している。

得意な国語、特に古文なら飽きずに取り組むことができたのに、不得手な英語を選んだために学習意欲もわかず、二年間ぐらいいは逡巡と過し、成績もひどいものであったにもかかわらず、その時は迷うことなくそう書いた。

学習において不消化に終わったことが、学習意欲に火をつけたのであった。必らず挽回しようと決意する。そして、それを実行した。

勤務先の中学校では、時間の許す限り発音練習に励んだ。七年間で教職を去り、いわゆる主婦となる。家事の合間の時間をひたすら読書に費やした。英文学の原書も読みあさった。

## 言語学習へのきっかけ

四十歳を過ぎた頃、夫が冗談のように、スペイン語を勉強してくれないかと言った。スペインへ行こうと言う。これを手始めに、その後、旅行のためにいくつか言語を学ぶことになる。そして、九つの外国語とつきあうことになったのである。

現在、カルチャーセンターで、



イタリア語を学んでいる。通い始めてから二十五年以上になる。受講仲間には、三十年以上という人もいる。講師はイタリア人である。文学の読みが深く、時には哲学者のように解説してくれる。二時間のうち、半分は会話、半分は文学講読である。教材として選ばれる原書は、平



▲イタリア語教室でイタリア人の講師を囲み茶話を開いた折

易なものではなく、予習には苦勞する。例えばカルロ・レーヴィの『キリストはエボリに止まりぬ』、エルサ・モランテの『歴史』など。今、ウンベルト・エーコの『薔薇の名前』を読んでいる。

他に、イタリアの書店などで買っている。自分の好きな本を読んでいる。オリアナ・ファツラーチ

小松みちさん(国文学科11回生 昭和45年3月卒業 高知県の町在住)

# 生涯、「好き!」を仕事に…

## 「本と植物」が好き

私が在学したのは、まだ古い木造校舎が残る中にコンクリートの講義棟が次第に建ち始めていた頃でした。すでに50年近い歳月が流れ、古希に手が届く年齢となつて、当時の若い自分が抱いていた漠然とした希望、培った原点のようなものを思い起こすと感慨深いものがあります。

私は「本と植物」が好きでした。学生時代に訪れた牧野植物園で、牧野博士の蔵書を取めた牧野文庫を見学した時、文庫を巡る回廊の小さな窓から万葉集に関する書物がびっしりと並んでいるのを見つけて、博士の蔵書の幅広さに驚嘆したことがあります。

こんなところで働いたらと強く思ったことを憶えています。県に司書として採用された後、女子大や保育短大の図書館

の「Niente e così sia」(ヴェトナム戦争の記録文学)も、その中の一冊である。

もともと、大学が自分にとって、最後の学び舎ではないと考えていたので、社会人になってから学ぶことは苦痛ではなく、自分で選択できるので、むしろ楽しいことである。

を経て牧野文庫の司書となつたのは43歳の時です。植物学者牧野富太郎博士との出会い、これが私の人生の行く手を決定づけました。

## 職業人としての巡り合わせ

牧野文庫には、博士が生涯にわたって収集した4万5千冊の蔵書と、植物画や遺品など約1万点があります。その整理が私の新しい仕事でした。博士が全国踏査に持ち歩いた日記、神業と評される精密な植物図、それらに直接触れて過ごした時間は何ものにも代え難く、職業人として得た巡り合わせ



▲ギャラリーの企画展、牧野富太郎博士生誕150周年記念展

に感謝しました。牧野植物園の再整備事業が始まったのはそんな時です。私も担当として記念館の展示計画に微力を尽くしましたが、これをきっかけに博士の伝記研究が私のライフワークとなりました。平成11年に植物園は無事リニューアルオープンし、県内有数の観光地として多くの人が楽しんで場所になつていくことは、携わった者として大きな喜びです。

## ギャラリー「ほたにか」開設

その後、それまでの経験を生かす第2ステージを目指し、少し早めに県を退職。縁あって仁淀川のほとりにある土佐和紙工芸村の古い蔵3棟を借り受け、「ほたにか」と名付けて植物画ギャラリーを開設しました。牧野博士のような優れたボタニカルアートを紹介したいと願って今年ではや12年目、これからも隠れた魅力ある作家を発掘し、皆様に良質の企画をお届けしたいと思っています。

# 高知県立大学の国際交流活動

国際交流センター長(学長特別補佐)

五百歳高浩



## 国際交流、主な五つの取り組み

2016年4月、国際交流活動の推進と、社会のグローバル化に伴う課題への対応力を強めていくために、「高知県立大学国際交流センター」が新しく設置されました。

昨年度までは、国際交流に関する計画づくりと実行は、「国際交流委員会」という組織が担当していました。今後は、その役割を国際交流センターが中心的に担っていくこととなります。

学生支援部には「国際交流課」が設置され、事務局のサポートも強化されました。



▲4月22日に永国寺キャンパスで開催された留学生歓迎会(国際交流クラブ主催)、盛大。本年、台湾からふたり、中国からひとり交換留学生、中国からの私費留学生は3人、イタリアからは9人の短期研修留学生も！(www.u-kochi.ac.jp 参照)

## ③ 海外機関との共同研究・教育

## ② 本学学生の海外留学・研修支援

## ① 外国人学生の受入支援

さらに、南裕子学長就任以来提携大学の数は増え、地域としては、アジア、北米、欧州にわたり合計9大学に及んでいます。活動の内容も多様になっています。北京旅游学院と文藻外語大学からの留学生は1年間を本学で過ごします。本学の学生も派遣先で1年間過ごし、正課の授業を履修し単位を修得してきます。各学部の専門性を活かした交流看護学部はガジヤマ大学(インドネシア)の方々を迎え、グ

事業支援、  
④ 本学教職員の海外研修支援  
⑤ 地域社会のグローバル化に伴う課題、  
以上5点に取り組みんでいます。草の根の国際交流から20年

振り返れば、海外の大学との公式の交流協定は、エルムズ・カレッジとの締結を行った平成10年(1998年)に遡ります。2017年は二〇周年を祝う年となります。

平成10年は池キャンパス開学の年でした。国際交流の強化は当時の成田十次郎学長の公約のひとつでした。以来、様々な方々の横の繋がりを介し、草の根で育んできたのが、本学の国際交流の特徴です。

振り返れば、海外の大学との公式の交流協定は、エルムズ・カレッジとの締結を行った平成10年(1998年)に遡ります。2017年は二〇周年を祝う年となります。

# 高知県立大学の地域交流活動

地域教育研究センター長(学長特別補佐) 清原泰治



## 先進的な「域学共生」全国規模に

本学が独自に掲げる地域連携の理念、「域学共生」(地「域」と大学が「共」に「生」きていく)が、高知県内だけでなく、全国的にも知られるようになってきました。きっかけは、昨年7月9日付読売新聞の特集「大学の實力」です。その後、河野太郎大臣(当時)が来学、学生たちと懇談されましたし、内閣府からの要請を受け、教員が「域学共生」の取り組みを説明に赴くこともありました。

「域学共生」「立志社中」という世間では耳慣れない言葉が、全国の公立大学の間では先進的な取り組みとして認知されています。本学学生たちの主体的で創意にあふれた活動が、社会的

ローバルヘルスと災害をテーマとした国際セミナーを開催、社会福祉学部はタイで国際ソーシャルワーク研修を実施し、さらに同国の大学との協定締結を進めています。健康栄養学部では、サバ大学(マレーシア)との交流が活発になっていきます。

文化学部では、カ・フォスカリ大学(イタリア)の学生を日本語・日本文化プログラムに3か月間受け入れています。また、

中国、台湾、米国の協定校から交換留学生を受け入れ、年数を重ねてきました。

学術交流・教育交流の選択肢をさらに増やそうと、協定校の候補と交渉を行っています。

幅広い視野と高い専門性を持ちながら、国境を越え文化を越えて課題解決に向かっているのが高知県立大学の学生の特徴だ、との声が聞こえ始めるのを願っています。

に評価されています。地域課題解決を必修科目へ

平成27年度から、「地域学概論」「地域学実習Ⅰ」「地域学実習Ⅱ」を必修化しました。1回生で地域活動を体験し、地域課題の解決に関心を高めて立志社中(地域の皆さまと協働し、地域の課



▲平成25年7月に6チーム、102名の学生で始まった「立志社中」プロジェクト。楽しみつつ健康になるよう応援するこの「健援隊」(58人)は、熱中症対策から僻地医療へと活動範囲拡大中!

題解決に向けて主体的に取り組む学生グループ)の活動に参加する2回生が増えています。

「立志社中」他、多様な地域活動  
一方で、今年度の特徴は4月に入学したばかりの1回生たちが、立志社中に数多く加わっていることです。そのため、今年度の9チーム274名から、今年度は10チーム、既に400名を超える学生が地域で活動しています。

また、チーム同士が連携した事業も増え、学部横断型の活動が活発化してきました。  
ボランティアなど多様な方法で地域活動に熱心に取り組む学生たちもたくさんいます。中心商店街で活動するエスコーターズは全国的にもよく知られていますし、大学の壁を越えグループで活動する学生たちもいます。

学外からのボラ情報を学生へ  
学生たちの主体的な活動を支援するため、地域教育研究センターでは「コミュニティサービスラーニングサポーターデスク」を開設しました。これは、本学と包括連携協定を締結している自治体やNPO法人、地域団体などからボランティアに関する情報を受け、学生たちに情報提供する仕組みです。

地域での経験が専門教育科目の学びの高度化につながることで、そして、学生たちの感性と情熱が、これからの地域社会づくりの大きな力になることを期待しています。

# 高知女子大学 発祥の地 記念モノユメント

## 記念碑建設委員会活動報告2016

### ●募金へのご協力御礼、感謝

高知女子大学発祥の地への記念モノユメント建設が決定されたのは、平成25年度(2013年)しらすぎ会総会(11支部の支部長など代議員と本部署理事並びにオブザーバー合計46人出席。5月18日開催)においてでした。

①世界に名を馳せる風の彫刻家 新宮晋氏に制作を依頼すること。  
②必要経費については卒業生からの募金による協力をお願いし、

不足分は特別会計の一部を支出することが可決されました。(経緯は『しらすぎ会報』47、48、49号でも随時ご報告)。

平成28年8月31日現在の募金総額は6,675,344円となり、募金活動を一区切りと致します。ご協力の心から厚く御礼、感謝申しあげます。

### ●地域交流広場南東に設置予定

新宮晋、保子ご夫妻をお迎えし、平成27年9月3日に高知県公立大学法人、高知県立大学

### 高知県文化生活部私学・大学

支援課、高知県土木部建築課、設計事務所、建築事務所、しらすぎ会との合同協議を開催。

現地視察も行い、新宮晋氏のご意見など戴きながら、建設地は地域交流広場の南東コーナーになる予定です。

### ●構造設計図を県側に提出

平成28年9月5日に新宮晋氏から基礎設計、構造設計がしらすぎ会に届けられ、9月8日高知県文化生活部私学・大学支援

## 恩師は今

### 異文化との交流

荻沼 一男

●平成28年の春に退職された荻沼先生に、近況をご寄稿いただきました。



平成28年3月31日をもって定年となりました。高知女子大学には、平成10年に生活科学部環境理学科の教授として就任しましたので、18年間在籍しました。その間、大学改革が行われ、平成24年には地域教育研究センターが設立され、同センターの教授として、その後(平成26年)に、生活科学部は廃学部となりました。環境理学科では、多数の優秀な卒論生と研究を通して、

「野外実習」では、2・3回生と共に、シンガポール・沖縄に分布する熱帯、亜熱帯の植物観察など有意義な時間を過ごすことができました。

特に、平成12年頃から始めたハマボツスの研究で、卒論生と共に採集(調査)に行った結果は現在でも活かされて

います。卒論生と行った南西諸島(宝島、奄美大島、沖縄本島、石垣島など)、個人的に採集を行った、台湾、ロタ島、ハワイ諸島、ニューカレドニアなど、植物採集がもたらした異文化との交流は貴重な体験でした。

定年後、本年度は特任教授として、永国寺キャンパス(南学舎)の地域教育研究センターの一室を継続して使わせていただき、引き続きハマボツスなどの研究と論文作成に時間を費やしています。顕微鏡も継続して使用でき、実験もできる環境になっています。

今後も高知市に在住し、高知県立大学の発展を見守っていきたくて希望しています。



●新宮氏の企画、制作、演出のミュージカル。発想は宇宙規模



●赤い甘いイチゴを讃え、大自然への感謝と平和への願いを宇宙へ向けて発信

課へ提出。私学・大学支援課から高知県土木部建築課へ書類提出され、モノユメント建設に向けて、いよいよ具体的な作業が進められる運びとなりました。

設置者はしらすぎ会ですが、県有地への建設となるため、諸手続きを経なければなりません。永国寺キャンパスの全校舎の完成を待つて、平成30年春を目標に、関係機関と協議しながら、諸手続きを粛々と進めます。

### ●高知県立大学のランドマーク

兵庫県阪神北県民局が進める「地域まるごとミュージアム」構想の情報発信シンボルとして位置づけられているのが、氏の作品常設展示場「風のミュージアム(略称風ミュ)です。そのコンセプトは「風・水・緑・動き」です。

今回の高知女子大学発祥の地

●事務局 (Fax・mailは常時)  
☎ Fax 088 (847) 5606  
mail : sirasagi@cc.u-kochi.ac.jp  
●http://www.u-kochi.ac.jp/~sirasagi/  
●事務局員勤務  
木&金 9:30 ~ 16:30  
●住所変更等、お知らせください!  
※同窓会費は終身会費として入学時に納入されています。会報が届かないのは現住所不明等のためです。

### しらすぎ会連絡先

役割を一定果たせるなら、無上の欲びに感じます。(会長 山崎美恵子/前会長 永尾朱美)